

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日

令和6年9月4日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470103569		
法人名	社会福祉法人IGL学園福祉会		
事業所名	グループホームゆうゆう		
所在地	広島県広島市安佐北区安佐町後山1047番地 (電話) 082-838-3434		
自己評価作成日	令和6年6月11日	評価結果市町受理日	令和6年10月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470103569-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和6年8月28日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

『家族のように愛し敬い支え共に歩んでゆくグループホーム』の理念のもと、ご利用者様とスタッフが共に笑顔で明るく楽しく過ごし、その人らしい暮らしが守られるよう支援し、ご家族様、地域の皆様とふれあう機会を作り、絆を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

「利用者一人ひとりのプライドと人格の尊重」に関して、研修と共に言葉かけ・語調・ケア時に日頃から意識し、ミーティングで意見や提案を出し合って振り返りを積み重ねている。事業所独自のスローガンを作り、理念と共に皆で唱和し、利用者を尊重した対応に力を入れている。職員は、コロナ禍による利用者の心身の機能低下を来さないよう、事業所内の行事は月2回、ドライブも週1回に増やし、アクティブで楽しみな働きかけに力を入れている。家族に郵送する写真は利用者の笑顔が増え、誕生会などの行事やおやつ作りの際も、楽しく持てる力を発揮出来るよう工夫を続けている。又、運営推進会議の充実に取り組み、多職種による情報提供や活発な意見交換を行い、家族アンケートに対しても丁寧な回答を続け、運営推進会議を通じ家族と利用者を共に支えあう関係性に繋がるように取り組んでいる。

自己 評価	外部 評価	項 目（ 1F ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	グループホームゆうゆうの理念、『家族のように愛し敬い支え共にあゆんでゆくグループホーム』を毎日の朝礼で唱和し、職員全員が理解し意識しながら利用者に接している。	事業所理念は、手書きの字で玄関や各フロアの見えやすい所に掲示し、ケアの原点として位置付けている。また職員は、共通の思いでどういう方向を目指すのか、法人のコンセプトを理解・意識し、年間事業計画のもと目標を掲げ、理念を原点として具体的な実践に取り組み、定期的にふり返りを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎年近隣や地域の行事にご利用者と職員で参加していたが、新型コロナウイルス感染対策もあり参加出来ていない。	コロナ禍にて最近は行事を通じた交流はないが、近隣住民から柿の差し入れや、プランターの土の助言があり苺の収穫が増えた例がある。又、事業所の庭で炭火焼きした鮎をお裾分けしたり、散歩時の挨拶など日頃から地域とのつきあいを継続している。今回、アートセラピーの外部講師の再訪を依頼している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症アドバイザー研修を受講した職員が依頼があれば地域の講習会で講師をし、支援している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度、ご利用者のご家族にも参加して頂き、今後の取り組みについて話し合いをしている。	3ユニット合同で行い、自治会役員・民生委員・住民・家族・近隣4か所のグループホーム職員・地域包括支援センター職員等が参加し、情報提供や活発な意見交換を行い事業所の理解・信頼に繋げ、地域交流の再開を課題として共有している。家族アンケートを丁寧に検討し、家族の提案を運営に繋げている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	インターネット、ブログ、運営推進会議などを通じて情報共有し、意見交換をしている。	法改正時などは、法人本部を通じて、行政からの必要な情報を得ている。地域包括支援センターからは、認知症アドバイザーとしての協力依頼や利用相談がある。運営推進会議の参加時には、地域行事の情報や事業所で行われた行事に関しての質問がある等、日頃から市町との協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を設置し、定期的に日々のケアの見直しを行っている。ご利用者の安全を確保するために必要な時は、ご家族から同意書を頂いている。同意書を頂いた折は、毎月1回カンファを行い見直している。その都度ご家族へ伝えている。	年2回の研修・年4回の身体拘束防止委員会を行い、特にとっさのスピーチロックについて事例をあげ、意見や提案を出し合っている。事業所独自の「介護の基本は敬語で..」と、人権尊重のスローガンを毎朝、唱和して共有し、心身の拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部研修に参加した職員が、ケアミーティングで報告し、全員が共通理解できるよう徹底している。虐待防止委員会を設置し、指針を作成、定期的に委員会を開催している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護について研修を受けた管理者が、社内研修で職員に報告し、学ぶ機会があり理解した上で活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約は管理者が十分説明しながら、ご家族に納得頂き契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族が来訪された時には、近況報告や要望などを聞き、意見交換しながら今後の運営に役立てるようにしている。3ヶ月に1回増刊号を郵送し、ご利用者の様子を報告している。	家族の面会時に様子を伝えて意見を聴き、運営推進会議前に毎回、家族アンケートを実施している。意見や質問に対して今後の対応を伝え、運営推進会議の議事録を郵送している。家族からの意見を反映し「写真掲載には同意を得ている」と一文を入れている例がある。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のケアミーティングで意見交換を行い、職員の意見を伝えられる機会を設けている。	3ユニット合同でケアミーティングやフロア会議・職員会議で意見や提案を出し合っている。「コロナ禍でも心身共に元気で活発な時間を増やしたい」との職員の意見から「施設内行事を月2回、ドライブは週1回に増やして、コロナ禍での心身機能低下を防ごう」の提案があり、チームで実践を継続している例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の生活状況に応じて勤務を配慮し、働きやすい環境づくりをしている。やりがいについては、1年間の目標が達成できるよう支援し環境整備に心がけている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	受講したい研修や法人内の研修に参加が可能なため、職員の意欲向上に繋がっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	2ヶ月毎の推進会議時に他のグループホームの管理者と意見交換をして質の向上に取り組んでいる。また月に一度、職員会議で各事業所の職員が集まり、勉強会や意見交換を行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時、不安や寂しいなど不穏になることが多い。職員全員で寄り添い声掛けなどを頻回に行い、安心して過ごせるよう見守っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の思いやご利用者の情報の共有を行い、困りごとや不安・不満などが話せるような雰囲気づくりを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族と本人の話を聞き、その人らしさを大切にしながら望んでいるサービスを見極め、職員で情報共有し対応していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ホームの理念に基づいて日常生活の中で、ご利用者の出来ることを無理のないように手伝って頂き、共存している。 (選択物干し、食器手洗い、トレイ拭き、テーブル拭き等)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご利用者の状況報告を行い、ご家族の意見や要望を取り入れながら、共に支えていけるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご利用者の大切にしておられた人間関係や、住み慣れた場所等の関係を崩さず支援するよう努めている。	職員は電話を繋いだり携帯電話の充電や操作を手伝い、家族に面会一覧表を郵送し円滑な面会を工夫している。写真集の一角に「元気である」や家族を気遣う手紙を自筆で書き加え郵送する等、馴染みの関係継続の支援をしている。要望で自宅近くのひまわり畑までドライブした時、知人に遭遇し懐かしむ事もある。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の個性に合わせ関わりが出来るよう同じテーブルを囲みコミュニケーションをとって頂き、作業やゲームなどのレクリエーション等で工夫し支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後も相談に来られたり、訪ねて来られる関係作りが出来ている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者の思いや要望を傾聴し、職員同士情報共有し、出来る限り希望に沿えるように努めている。	利用開始時にライフスタイルヒストリーとして今までの生活歴・楽しかった事・辛かった事・現在の思い等を把握し共有している。職員は普段から話しやすい雰囲気と信頼関係を大切にし、困難な場合は家族から情報を得て長期的な観察により本人本位に検討し、その人らしく過ごせるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご利用者、ご家族を通してこれまでの生活歴や生活環境を把握し、安心して頂けるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご利用者との会話を心掛け、日々観察し記録に残し、全スタッフで共有している。		

自己評価	外部評価	項 目 (1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご利用者やご家族の思いや願いを汲み取り、ご本人もケアカンファレンスに出席し、多職種と連携した介護計画と見直しを行っている。	利用者・家族の意向をもとに医師・リハビリ部門等からの情報を得て、介護計画書を作成し、本人と共に具体的に話し合っている。得意な事を続ける・廊下歩行が楽しくなる工夫・個別のコミュニケーションのとり方等、分かり易くし、部屋の入口に貼り、家族と共有しながら通常6か月毎に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日のケア記録メニューに、観察記録・活動内容を記録し周知事項は連絡ノートに記入、申し送り時に報告している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時々状態の変化に柔軟に対応できるように取り組みを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源を把握し、行事等への参加や地域の方と交流していたが、現在はコロナウイルス感染予防のため中止している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	訪問看護や医師の訪問診療と連携し、ご利用者の健康管理に努めている。	契約時に、事業所と協力医療機関との連携体制を伝え、本人・家族が納得後、かかりつけ医を決めている。月2回の訪問診療時には職員が同行し文書にて医師に確認後、適切な介護に繋げている。職員は「普段とは違う」の気付きを迅速に医療関係者に相談する等、適切な医療に繋げられる体制となっている。	

自己評価	外部評価	項 目 (1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1回訪問看護師が来られ、ご利用者の状態の変化やスタッフの相談に乗って頂き、密接な連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換のため、入院中は病院に定期的に状態確認をし、ご家族にも報告し、今後の対応を検討している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重症化された場合には、必要に応じてご家族、医療関係者、訪問看護師などとカンファレンスを行い、今後の方針を共有して支援に取り組んでいる。	重度化・終末期には、医療関係者や介護施設とも連携をとり、移転先や時期について本人・家族の気持ちに寄り沿い支援を行っている。事業所で看取り支援を行う場合は、簡易ベッドの準備など家族と一緒に過ごせるよう配慮している。毎年、看護師による「看取りについて」の研修を行いチームで支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内研修やケアミーティングで、看護師、消防署に講師を依頼し急変時の対応を学び、実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署や地域とも協力し、定期的な消防訓練を行い全職員が避難体制の確認と方法について把握できている。	年2回の避難訓練を行い、消防署の協力時は火災時の初期対応や避難方法などの助言を得ている。自然災害時の垂直避難は、具体的な方法の検討を重ね、簡易ベッドなど有効に活用できるよう実施訓練も行っている。垂直避難したフロアのベッド配置を決めておく等、介護が継続できる体制を立案し共有している。	

自己評価	外部評価	項 目（ 1F ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	お一人おひとりの尊厳を守り、ご本人の誇りを傷つけないよう言葉遣いに気を付けてながら対応している。	言葉使い・接遇の研修と共に人権擁護の研修を行い、ケアミーティング等でプライドや尊厳を損ねない言葉づかいや対応についてふり返りを継続している。特に身体的な事や排泄面、守るべき情報は漏らさず、人権を意識した関わりに取り組み、管理者は身体拘束をしないケアの根底としても周知徹底に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者の要望を聴きながら、出来るだけご利用者の意思に沿えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切にし、ご本人の希望に沿った生活を過ごしていただけるよう支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日々の生活の中で髪型の乱れがないか確認し、好みの洋服を選んで頂き、化粧などご自身で選択していただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご利用者のその日の体調をみながら、自分自身が使用したコップ等を洗っていたり、無理のない作業を一緒に行いコミュニケーションをとりながら残存機能を維持している。	法人キッチンからの統一献立に加え、メインとなるおかず・サラダ・和え物・汁物は職員が丁寧に調理し盛り付けを行い提供している。利用者が注文する寿司パーティーやバーガーパーティ、戸外で魚焼き、桜茶で花見、育てた苺を使ったパフェなど、多様な食支援に取り組み楽しみに繋げている。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	献立はIGLの統一献立を管理栄養士が立 て、栄養管理をしている。水分量につ いては個々で管理している。食事料や水分 量が低下した時は代替のものを提供し対 応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	定期的な歯科受診や毎食後の口腔ケアの 声かけ、必要であれば介助し、毎晩の義 歯の消毒洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	行動を観察しながら排泄パターンを把握 し、トイレの声かけや誘導、介助を行っ ている。	排泄パターンを把握し、個々の様子を観 察しながら早めの声かけを行っている。 利用者の変化する状況に合わせ、リー ダーや担当職員を中心に、パットや紙パ ンツの種類を検討し選択している。全居 室にトイレを設置しており、排泄の自立 支援に繋がる環境に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄パターンを把握し、水分補給や運 動・乳酸飲料なども取り入れ水分補給に 飲んでいただき、ご利用者に応じた予防 に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	2日に1回希望に応じていただけるよう、 ご利用者の意思を尊重し体調に合わせて 入浴支援を行っている。	週3～4回の入浴を基本とし個々の要望と 身体状況に合わせた介助や見守りを行っ ている。可動式入浴台を用いるなど安全 確保と入浴動作の自立支援に努めてい る。無理強いをせず気持ちよく入浴出来 るようタイミングや声かけの内容を配慮 している。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	午後からご利用者の生活習慣や 体調に合わせて、意思を尊重し 体調に合わせて休息支援を行っ ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	職員全員がご利用者が服薬して いるお薬の用法・用量を把握し 、状態の変化など観察を行い、 変化のあるときには医師や訪 問看護師と連絡が取れる体制が 出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	個々に合わせた楽しみや気分転 換をしていただけるよう工夫し ている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	天気の良い日はドライブや散歩 に出かけ、外気浴はその日の気 温や陽射しを確認して行ってい る。	コロナ禍前に行っていた旅行や 外出による地域との交流は難し く、職員間で検討し、ドライブ による支援回数を増やした。住 んでいた地域を懐かしみ、時 には外出先でアイスクリームを 食べる等、より楽しくなる外出 支援を工夫している。中庭のベ ンチで和菓子と桜を楽しみ、 苺の水やりや収穫も行ってい る。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	紛失を防ぐため、ご利用者が希 望される物をご家族に買って頂 いたり、職員が購入し代金は後 から請求するよう支援している。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の使用や取り次ぎを支援し、施設内の様子を写真に撮り増刊号としてご家族にメッセージを書いて頂き送付を行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間に季節ごとの壁画をご利用者と一緒に作成し季節を感じるよう工夫している。居室では、ご本人がゆっくり快適に過ごして頂けるよう工夫している。	個々の体格にあった椅子や背あての座布団で、落ち着いて過ごせる席を定め、10時のラジオ体操に集中したり、職員と誕生会の会話をしながら午前中はアクティブに過ごしている。手作り風鈴や夏祭りの手作り神輿など、近寄って見たくなる季節の物を職員と共に飾り、家族との会話にも繋がる共有空間作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご利用者の性格を把握し、各テーブルで会話が出来る方や気の合う方とお話をしたり、新聞を読んだり、ゲームをしたり工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時にはご家族とお話させていただく中で、家族写真や馴染みの家具を自宅から持ってきて頂き、ご本人がゆっくり快適に過ごして頂けるよう工夫している。	身近で使い慣れた物、愛着のある物、大切な物を持ち込み、自分らしく過ごせるよう支援している。自宅ではスムーズに使っていた大切な物が、思ったように扱えない場合も、職員が要望を受け止め寄り添いながら、解決した例もある。クーラーの風や転倒に配慮した家具の配置を助言する事もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自立した生活が送れるように共用設備には大きくわかりやすい表示を行い、ご利用者が使用する椅子やテーブルには名前を貼り、安全に安心して生活していただけるよう工夫している。		

V アウトカム項目(1F) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項 目（ 2F ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝申し送りの時、理念を唱和、共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ過のため、日常的には交流できていないが、災害時など支援して頂けるよう連絡を取っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ過以降出来ていないが、地域の方との関係を大切に思っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度、ご利用者、ご家族、地域の方々に参加して頂き、意見交換しながら向上に努めている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	コロナ過以降は地域行事に参加していないが、市町との関係を大切に思っている。		

自己評価	外部評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修を受けた職員がケアミーティングの際、その内容を報告することで職員全員が周知し防止を徹底、やむを得ない場合はご家族に十分説明して同意を受け、1ヶ月に一度の見直しをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修を受けた職員が高齢者虐待防止のための指針を作成、ケアミーティングで職員全員が周知し防止を徹底するよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修を受けた職員がケアミーティングの際、その内容を報告することで、職員全員が周知し活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご利用者やご家族と話し合い設け、十分な説明をし理解、納得して頂けるよう心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設置、自由に意見を述べられるようにし、運営推進会議等で外部へ表す機会を設け反映させている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は職員と面談して運営について意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回、管理者との個別面談があり職員の実績・状況を把握し働きやすい環境になっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修に参加する機会を設け職員のスキルアップ向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	月に一度の職員会議で同業者の研修報告や部署の活動内容を聞き交流を深め、共に向上するよう努めている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご利用者のご家族の不安や要望などの話をじっくり傾聴し、相手の目を見て優しい言葉掛けをすることで、信頼関係を築いている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	不安や分からないことを聞きやすくする雰囲気づくりをして、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	何が必要か見極め、個々にあったサービスを広い視点から判断し、提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共に生活することを大切に教えたり、教えられたりで信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族には常に状況報告し、今までの暮らし方の情報提供をして頂きながら、共に支援し合う関係を構築している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	これまでに築いてきた物を継続できるよう、支援することを心掛けている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	全員が楽しめるレクレーションや協力しながら作業することで、ご利用者同士の信頼関係の向上を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後も、いつでも連絡頂いたら支援できるよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の思いを尊重し、希望を第一に考え、マイペースで暮らせるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活歴や暮らし方を把握し、サービス利用に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	過ごし方や体調の変化に気付けるよう、日頃から様子観察している。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご利用者やご家族、他職種の方を交えカンファレンスで意見交換し、ケアプラン作成に活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	観察記録として入力し、連絡ノートにも記入して情報を職員全員が共有、実践やケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	新しいニーズに対応できるよう柔軟に外部の支援も受けながら取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源を把握し、自分の力を発揮できて暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	日頃の情報提供を行い、信頼関係を構築し、適切な医療が受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	異変があれば直ぐに勤務中職員が連絡、医師に相談、指示を仰いでいる。また、週に一度の訪問看護には気付きを相談し、適切な医療を受けれるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した折には、情報提供を密にとり、ご利用者が安心して治療できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族が納得できるよう、医療関係者と話し合いをして頂き、今後の方針、対応を共有しチームで支援するよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	ケアミーティングの場で緊急時の対応について研修を受け、スキルアップの向上を図っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練を実施し、職員全員が安全且つ迅速な対応ができるよう努めている。また、ご近所の方に協力を仰げるよう、日頃から連絡を取っている		

自己評価	外部評価	項 目（ 2F ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用者、一人ひとりに丁寧な言葉掛けや敬う態度で接している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	複数の選択肢を用意して、自己決定ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者の思いを第一に考え、その方のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着衣や髪のはきはきは整え、その人らしさが出るよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	好みに合う、食べやすい食事を提供し、メニューを説明しながら楽しい時間となるよう努め、また、準備や片付けを一緒に行っている。		

自己評価	外部評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分や食事量を記録して、その日の状態を把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを行って清潔保持をし、状態の悪い方には歯科受診をして頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、声掛けをすることで失敗を減らしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	運動や飲食で排泄しやすくし、記録することで状態を把握でき、医師に相談しながら予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴で心身共にリラックスできるよう努め、肌の状態把握をしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	お昼寝で体のリフレッシュが出来たり、就寝時刻を把握した上で、安心して眠りにつけるような声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬が及ぼす目的や副作用を理解し、完全に服薬できているか確認している。服薬後は状態の様子観察するよう徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々に合った手伝いをして頂くことで自信を持ち、レクリエーションで楽しい時間や気分転換をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ドライブに出かけ、花や木々を見てリフレッシュして頂いている。コロナ過で地域の方々とは外出していない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族と相談の上、その方の希望や能力に応じて、所持しているご利用者もいるが、使用はされていない。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族より電話があった時に話して頂いたり、写真集に自筆でメッセージを書き、ご家族に送付し大変喜んで頂いている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	障害物がないか、または、室温やテレビの音量をチェックし、生花を飾り季節感や和める空間作りをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	グループでおしゃべりを楽しんだり、一人でテレビを見たり、思い思いに過ごせるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具やアルバムを持って来て頂き、ご利用者の嗜好にあった居室作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々の能力を把握した上で手伝いやレクレーションに活かし、自立支援に努めている。		

V アウトカム項目(2F) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項 目（ 3F ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝IGLの理念『隣人愛』とグループホームの理念を唱和する事により、全職員が理解しケアに当たっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナウイルス感染予防のため、まだ地域との交流は殆どしていない。外気浴や散歩時に、ご利用者、職員共に挨拶を交わす程度に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議や認知症アドバイザーの研修を受けた職員が講習会の依頼を受けた際に地域の方への支援方法を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域の代表や利用者様、そのご家族の方々と情報を共有し、話し合える場となっている。意見を受けてサービス向上にも活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	インターネット、ブログ、運営推進会議などを通じて情報共有し、意見交換をしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (3F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	夜間、防犯上玄関の施錠はあるが、それ以外は拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修を受けた職員がケアミーティングで報告し全職員が虐待について理解し防止を徹底するよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	外部講習と施設内で学ぶ機会があり、理解し活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、分かりやすく内容を説明し、理解と納得を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	3カ月に1回ホームでの生活を写真に収め、ご家族に送付している。また、電話や面会時に意見や要望を伺ったり、日々の様子や状況等を伝えている。運営推進会議でも意見を伺い運営に反映させている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (3F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回、ケアミーティングや年2回の個人面談時に意見や提案が出来る場が設けられている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の状況に応じて勤務が配慮されており、働きやすい環境になっている。年2回、上司との面談を行う事により理解に努めているように感じる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人外ではリモートで研修に参加している。法人内では勉強会を再開している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	月に1回、職員会議を行い各事業所が集まり勉強会や意見交換の場を設けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の話を傾聴し、寄り添い、言葉かけを行い、安心と信頼関係を築けるよう努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (3F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に話を伺い、ケアプランを共有している。ご家族からの要望や不安があれば、その都度話合えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	介護サービス計画書の内容を説明し理解を頂いている。要望に応えられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ホームの理念に基づいて、接していると感じる。洗濯物干しや畳物、食事の準備や食器、テーブル拭きなど、出来る事もして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や電話で話を伺いながら、関係を築いていけるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ドライブ時に馴染みの場所を訪れたり、お正月は馴染みの神社へ初詣に行っている。面会など気楽に来れるような関係作りに努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (3F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々に合わせた環境作りを工夫している。理念の実施を行い関わり合いが深まるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後も行事に参加して頂いたり、話を伺ったりしていたが、近年はコロナウイルス感染症予防で疎遠になってしまっている。相談や支援は協力していけるよう取り組んでいる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人やご家族から話を伺い把握に努めている。困難な場合は日々の生活の中で希望や意向を見つけ出すようにしている。出来る限りの希望に応えられるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様からの話や相談記録を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活記録や職員間の申し送りなどを利用し、把握出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目 (3F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	課題やケアのあり方等、意見を出し合えるようにミーティングを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の活動記録等、情報を共有し、気づきを話し合いケアプランの見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族からは電話や面会時に近況を話される。内容から状況を把握するよう努めている。ご本人のニーズはその都度職員間で話し合い、支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源は把握しているが、コロナウイルス感染症予防で協働は出来ておらず、本人の力も発揮出来ていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に1～2回の往診と年1回定期健診を受けている。何かあった時は受診や往診を行っている。緊急時は24時間連絡が取れるようになっている。歯科はその時々受診や往診を行っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (3F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回、訪問看護師と情報を共有し相談と指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と情報を共有し、状態の確認を行い退院後の対応を検討している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重症化や終末期については、ご家族と医師、看護師、職員で話し合いを行い、ご家族の意向を確認し支援している。ご家族へは現状や状況変化を細目に報告している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	ケアミーティングで初期対応が出来るよう、看護師から定期的に研修を受ける機会を設けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署と協力し定期的に訓練を行い、職員は避難体制の確認と対応出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目（ 3F ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	居室訪問時は必ず名前を呼びノックをし、プライバシーを損ねない様にしている。排泄に関する事は小さい声で隠語で話している。誇りを傷つけない様、言葉遣いに気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	思いや希望を表せれるよう言葉かけしている。表情だけで表される時もあるので思いを汲み取り、思いに添えるよう務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1人ひとりに合わせて希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	好きな衣服を選んで着て頂いている。自分で決定出来ない方は職員が協力している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備と片づけを手伝って頂いている。その方に合った食形態で提供している。季節に合わせて色々作って頂いている。季節問わずデザートやハンバーガー等も作って楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目 (3F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	管理栄養士がたてた献立の食事量を把握 し、水分量の確保が出来るよう状態をみ ながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアの準備をし歯磨きの声 掛けを行っている。義歯は消毒洗浄を行 い清潔を保持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	トイレで排泄出来るよう、定時の誘導以 外に状態をみながらトイレへの声掛けを 行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄表を活用し排便リズムを把握してい る。バナナを食べて頂いたり、牛乳や乳 酸飲料を引用して頂いたり水分量の調整 を行っている。排便がみられない時は、 排便調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	入浴剤を使用し入浴を楽しんで頂いてい る。希望時間の要望に応えられない時も あるが、入浴の声掛けをした時に本人の 希望を聞いている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (3F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	昼食後、お昼寝を希望の方は休 んで頂いている。午前も体調や状 況をみて休息を して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている。	職員全員理解している。症状の 変化は職員間で情報を共有し、 支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	家事など、その方に合った役割 を知り、日常生活に活かせるよう 支援している。 ドライブや散歩、外気浴で気分 転換して頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普 段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や 地域の人々と協力しながら出 かけられるように支援している。	コロナウイルス感染予防のため、 地域の方々と関わる外出は控 えている。ドライブや散歩、外 気浴している。ドライブでは、 ご利用者の自宅近くを通るよ うにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように 支援している。	コロナウイルス感染予防のため、 お金を使える場所へ出かけてい ない。ドライブの時に、途中で お店に寄りご利用者が食べたい 物、アイスクリームやジュース、 お団子などを購入し召し上が っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (3F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をかけたり、手紙のやり取りをしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	環境整備には配慮している。清潔さや室温には注意し、季節感のある飾り物を工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室や共用フロアでお一人おひとりの個性に応じて過ごして頂けるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた物を持って来て頂いている。ご家族と協力し、居心地良く過ごして頂けるよう配慮と工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室のドアに大きな字で名前を表示し、1人で居室に帰れるようにしている。移動線路上に障害物はなく、安全な環境を作っている。その方に合わせた「できること」「わかること」への支援を行っていきけるよう努めている。		

V アウトカム項目(3F) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームゆうゆう

作成日 令和6年9月24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域との関わりが希薄になっているので、増やして行きたい。	地域の行事等に参加し、地域の方とふれ合い、日常生活を活性化する。	包括支援センターと連携を取り、地域の行事や情報を入手して積極的に参加してみる。	一年間
2	49	コロナ5類に移行し、多少の外出支援は出来てきたが、以前の様に活性化させたい。	心と身体が元気になり、脳の活性化をしてゆく。	・外部講師も様子を観ながら増やしたい。 ・本人の思いなど聞取りを行い、その思いが叶う様に計画を実施してゆく。 ・色んな所へドライブや買い物にも挑戦してみる。	一年間
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。